

改善計画・結果報告書

平成21年6月29日

評価会議議長 殿

附属図書館長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、平成20年度に実施した組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり改善計画・結果を報告します。

○ 静岡大学附属図書館自己評価書（平成20年7月）

http://www.lib.shizuoka.ac.jp/koho/hyoka/tosyokan_ziko_hyouka_houkoku_2008c.pdf

○ 静岡大学附属図書館自己評価書（平成20年7月）資料編

http://www.lib.shizuoka.ac.jp/koho/hyoka/tosyokan_ziko_hyouka_houkoku_2008x.pdf

○ 静岡大学附属図書館外部評価報告書（平成20年12月）

http://www.lib.shizuoka.ac.jp/koho/hyoka/tosyokan_gaibu_hyouka_houkoku_2008.pdf

要改善事項

2 活動の実施体制の見直し。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

- ・附属図書館委員会のもとに設置しているワーキンググループの活動を検証し、実施体制の整備を図る。
- ・学生アルバイトの活用やボランティア活動の拡大（利用学生モニター制度を発展させる）などにより、学生の図書館活動への参加を促進する。
- ・教職員とも連携を深め、教育・研究に結び付いた支援体制の向上を図る。

改善結果

- ・利用学生モニター会議を2回開催し、学生の要望を把握した。（平成20年度）
- ・本館では学生選書ツアーを、浜松分館では選書キャンペーンを実施し、学生による図書の選定を行った。（平成20年度 学生による選定図書：本館110冊 浜松分館134冊）
- ・教員、大学院生に電子ジャーナルアンケートを実施した。（平成20年度）
- ・新入生セミナーの補助要員として、学生アルバイトを活用した。（平成21年度）
- ・利用学生モニターを募集するとともに、図書館リニューアル構想に関するオープンな学内説明会を開催した。（平成21年度）
- ・活動を停止していたワーキンググループを整理し、館長のもと新たに4つのワーキンググループを立ち上げ、活動を開始した。（平成21年度）

要改善事項
<p>3. 1. 1 資料の収集・整備 蔵書とその管理の内、遡及目録データ登録の推進、蔵書の整理と廃棄に関して。</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・遡及目録データの登録は、平成19年度から6ヵ年計画で、学内予算によりデータ登録作業中であるが、全蔵書のカバー率を90%と想定し、早期完了に向け平成21年度の計画を策定している。 ・現在、開架図書と研究室貸出図書の点検を実施しているが、未実施の書庫の点検作業計画を平成21年度に策定し、順次実施する。 ・書庫の狭隘化対策として、不用決定等の取扱指針を整備し、不用図書の廃棄に着手する。不用図書の選定に際し、退職教員など専門家を活用するなどの方策を検討する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・遡及登録年間登録件数 平成19年度 37,439冊 平成20年度 58,607冊 ・遡及登録対象冊数 102万冊 未登録冊数 25万冊 遡及済率75.4%（平成20年度末） ・「静岡大学附属図書館図書資料の不用決定と廃棄に関する取扱指針」等、不用決定ならびに廃棄に関する規定案の整備を進めた。（平成20年度）

要改善事項
<p>3. 1. 2 蔵書構成の改善 ① 教育関係資料の収集と運用の内、学生用図書費の充実、シラバス参考図書の整備、学生リクエストの促進に関して。</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生用図書費として、授業料の1%を目標に学内の合意形成を目指す。（平成21年度以降） ・寄付金等による補填を検討する。（平成21年度以降） ・シラバス参考図書を網羅的に収集し、必要な図書を複数購入できるよう、予算の確保に努める。 ・留学生を含めた、学生による選書を促進する。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・授業料の1%を学生用図書に反映できることを目標としているが、予算枠の確保にはいたっていない。附属図書館委員会で意見交換の上、教育研究評議会、役員会に要望を提出する。 ・学務システムにおけるシラバス参考図書の記入方法について見直しを図った。また受入したシラバス参考図書は図書館Webサイトから、学部・研究科、科目名、教員名、参考書名などにより検索できるようになった。（平成20年度） ・学生による選書を進めるため、静岡キャンパスでは「学生選書ツアー」を、浜松キャンパスでは「学生のための選書キャンペーン」を行い、244冊を購入した。（平成20年度）

要改善事項
<p>3. 1. 2 蔵書構成の改善</p> <p>② 研究関係資料の収集と運用の内、研究用図書の利用促進に関して。</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同利用可能な資料の収集を促進するため、教員の理解を求める。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の集中管理を進めるため、資料区分を明確化したが、さらに教員への広報が必要である。 ・ 平成18年度に設置された特殊コレクションWGを発展的に解消し、資料収集WGを立ち上げた。比較的高価な資料や大型の資料について、部局を超えた共通テーマ、チーム研究への資料面での支援について電子ブックの収集も含め検討を始めた。（平成21年度） ・ 本学教員に対し、教員著作図書の寄贈依頼を行った。（平成21年度）

要改善事項
<p>3. 2 利用者サービス</p> <p>利用者サービスの内、開館日・開館時間、資料の貸出、利用指導に関して。</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者のニーズ、利用状況に応じた開館日・開館時間を設定するよう見直しを図る。特に講義開始時間にあわせた朝の開館時間の変更について検討する。 ・ 資料の貸出については、貸出条件を再検討する。また、書庫の安全性を高め、学部学生が直接資料を利用できるよう整備を進める。 ・ 新入生セミナーにおける図書館利用セミナーの内容、実施時期等を見直す。また、電子ジャーナル等の講習会を充実させる。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義日程にあわせ、8月、9月、3月の開館日、夜間開館時間を見直した。（平成21年度） ・ 新入生対象の図書館利用セミナー（ベシック編）の開催時期を6月までに終了するよう編成を工夫した。（平成21年度） ・ 書庫の入庫管理システム導入、照明や案内板の増設等、書庫の整備を進めている。（平成21年度）

要改善事項
<p>3. 3 資料多様化への対応</p> <p>資料多様化への対応の内、電子ジャーナル等の学術情報基盤の充実、学術リポジトリを中心とする情報発信機能の充実に関して。</p>

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> 電子ジャーナル検討WGを立ち上げ、今後の契約方針の検討を開始。出版社との交渉において価格の高騰を抑える努力をしつつ、継続購読と電子ジャーナル環境の一層の充実に向け学内のコンセンサスを得る。 学術リポジトリについては、大学の事業としての位置づけを明確にし、財政面、組織面で全学の合意を形成し、安定的な運営を図る。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> 電子ジャーナル検討WGを立ち上げ、利用者アンケートを実施した。（平成20年度） 価格高騰化の対策として平成21年度以降の複数年一括契約等を検討した。（平成20年度） 学術情報基盤として新規データベース（Web of Science）1点を導入した。（平成21年度） 平成20年度国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に採択され、平成20年4月、静岡大学学術リポジトリ（SURE）を本公開した。平成20年度は、博士論文と科学研究費報告書の登録を進めた。また、教員の意見を取り入れたオリジナルな機能や、他システムとのリンクを中心とした多様なナビゲーション機能を開発した。（平成20年度） 平成21年度も「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に採択され引き続き登録を進めている。平成21年6月、登録件数は3,000件を超えた。（平成21年度）

要改善事項
<p>3. 4 社会貢献</p> <p>社会貢献の内、地域図書館との連携に関して、</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> 県立中央図書館との搬送便について検証するとともに、さらに連携を強化する。 静岡県立大学図書館との連携方法について検討する。 浜松市立図書館との連携方法について検討を始める。 学外者の利用状況を把握し、大学図書館の意味を明らかにしてサービスの充実を図る。
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> 静岡県立図書館との搬送便について連携を協議し、実施に向け課題を整理した。（平成20年度） 静岡県立中央図書館との搬送便について、平成20年度は前年どおり運用したが、より効率的な運用方法について検討を始めた。（平成21年度）

要改善事項
<p>4 施設・設備の整備に関して、</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確保のため自動入退館装置を導入し、あわせて本館書庫の入庫管理、照明の増設、誘導サイン等の設置の計画を進めた。（平成20年度） ・学生の新しいニーズに応える学習空間を確保し、更なる図書館サービスを充実させるために附属図書館本館リニューアル構想の策定を始めた。（平成20年度、21年度） ・浜松キャンパスの教員数、学生数に見合った浜松分館のスペースを確保し、新たな学生支援機能を付加した施設整備計画を立案する。（平成20年度、21年度、22年度）
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・浜松分館旧機械室を整備、集密書架を設置して書庫に転用した。これにより図書収容可能冊数が約18,000冊増加した。（平成20年度） ・静岡本館、浜松分館ともに自動入退館装置を導入した。（平成20年度） ・閲覧机、椅子の更新計画を教育研究設備要求として提出した。（平成20年度） ・静岡本館書庫入庫管理システムを導入した。（平成20年度） ・静岡本館書庫照明増設、案内板を設置（平成21年度） ・附属図書館本館リニューアル構想の検討を開始した。（平成20年度、21年度） ・附属図書館浜松分館の施設整備案を再検討し、概算要求事項として策定した。（平成20年度、21年度）

要改善事項
<p>6 管理運営</p> <p>図書館職員の養成計画について。</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関が開催する研修会等に積極的に参加するとともに、自館での研修プログラムを計画する。（図書館職員セミナー、図書館主催講演会の企画など） ・研修会の講師、学内外でのプレゼン、論文の執筆等に取り組む。（平成21年度以降）
改善結果
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員初任者研修を実施した。（平成20年度） ・図書館職員セミナーを開催し、大学内の動向等について情報を共有した。（平成20年度） ・国立情報学研究所の「地域目録講習会」を開催した。（平成20年度） ・静岡県図書館大会等で講師を務めた。（平成20年度） ・若手スタッフを中心に他大学の視察研修を行った。（平成20年度、21年度）